

伊豆市議会第一委員会 行政視察報告書

平成30年 8月20日

伊豆市議会議員 森 良雄

7月25日～7月27日の九州 福岡・熊本・大分方面の第一委員会の視察について報告する。

7月25日 福岡県 朝倉市

7月26日 熊本県 小国町 黒川温泉

大分県 豊後高田市

7月27日 大分県 別府市

大分県 国東半島地域世界農業遺産  
七島蘭学舎

## 福岡県朝倉市

朝倉市は福岡県のほぼ中央部に位置する。面積は246.71km<sup>2</sup>で南に1000mクラスの山を持つ伊豆市に似たまちだが、伊豆市と比べると山林は面積の55%程度であり、その分平地が多い、開けたまちである。

人口は53,700人

議員数は17名 議員報酬は386,000円

一般会計の30年度当初予算は 655億3,332万円

29年度 520億6,198万円

このことから、平成29年7月の九州北部豪雨災害による復旧予算は120億円増である。

予算の内訳まではわからないが、復旧に多額の費用が必要なのがある。

災害復旧に対する財政的な備えが必要である。

7月5日の線状降水帯によるこの地の雨量は 774mm / 9時間

平均雨量 86mm / h

50年前ごろの利根川の洪水危険雨量は300mmと言われていたが、近年の災害対応はそれよりも大きく改善されている。この辺の雨量が災害発生の目安であろう。

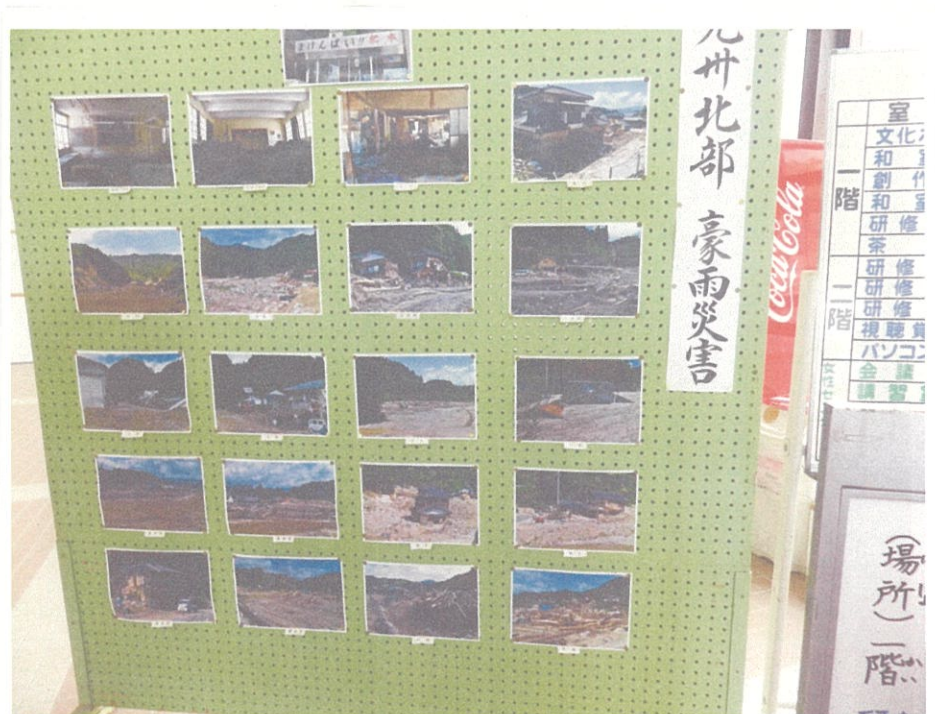
伊豆市も市、独自の危険雨量、水位などを想定しておき、市民に知らせておくと良い。

朝倉市からの提案

住民から支持されない復興計画はうまくいかない。

朝倉市の災害写真を下に示す。

この写真は入り口に掲示」されていたものである。



この写真は国土交通省、直轄の復旧現場であると  
とである。

担当者の話では朝倉市の復旧はこれからと言うこ  
個々の土質は土石流の残渣とみられる

いわゆる真砂土と言われる災害現場の土質である  
今年の西日本豪雨の土質と同質の土砂である。

この写真は国土交通省が直轄の復旧現場である

個々の土質は土石流の残渣とみられる



いわゆる真砂土と言われる災害現場の土質である



## 熊本県小国町黒川温泉

小国町の人口 4,000人  
面積 115.9km<sup>2</sup>  
議員定数 10人  
議員報酬 198,000円

小規模なまちですが、黒川温泉の知名度は抜群である。  
その特徴は黒川温泉観光旅館協同組合にあります。

組織は

従業員 6名  
事務員 4名  
環境整備 1  
プロジェクトマネージャ 1名  
会員事業所数 25 (旅館数30)

わずか30件の旅館と緑豊かな小さな温泉街です。

年間宿泊客数 26万人 いりこみ客数 78万2000人 (17粘土)

### 黒川温泉の特徴

黒川温泉は30軒の旅館が競争しながら共創しています。

一つ一つの旅館を部屋と考え温泉街を廊下と考えた調和のとれたまちをつくっています。

全体は一緒にやると言う考えです。個は競いながら、全体は一緒にやる。

困っているところがあれば助け合います。

雑木の植樹活動は有名ですが、本当に雑木です。隙間があれば木を植えていると言う感じです。

伊豆市との違いは、木があれば切ってしまうと言うところでしょう。

植樹へのこだわりは今に続いています。

何処の湯でも入れる入湯手形の創出。小国杉の利用。

黒にこだわったまちづくり。

共同カンバン

コカコーラの自動販売機までがくろでした。

### 黒川温泉の提言

地元住民に支持されない観光はほろびる。

どん底だった黒川温泉を復活させたのは

住民を考えた観光をすすめたことです。

### 伊豆市との違い

自分たちが主体のまちづくりを進めています

黒川温泉の風情



何でも黒くしています  
コカ・コーラの自動販売機



## 大分県 豊後高田市

人口 22,861 人

議員数 18 人

議員報酬 340,000円 期末手当も伊豆市より良いようです。

平成30年度の当初予算規模 145億6,371万円

### 政策の特徴

#### 昭和の町

賑わいを昭和の風情のあるまちづくりですすすめています。

#### 教育の町

学びの21世紀塾、高い学力水準、保・幼・小・中・高の校種間連携を推進

給食費の無料化

#### 移住から定住へ、子育ての町

充実の子育て支援、就労支援、コンパクトシティならではの暮らし

そして、心癒される自然、スローライフのまちをすすめています。

### 特徴あるサービス

新婚生活応援金、

ママ家事サポート、きらきら子育て応援事業、子育て用品レンタル事業

がんばれパパ・ママ子育て応援事業

住みたくなるような事業がたくさん用意されています。

わかりやすく説明されています。

## 豊後高田市

### まちづくりのパンフレット



豊後高田市役所の一階です。



豊後高田市のまち中





大分県 別府市

源泉数が2, 298孔あり静岡県に匹敵する温泉のまちです。

日本一の温泉のまちと称しています。

人口 118,761人 平成29年度

別府湾の奥にある温泉都市です。

研修の最大の目的は

### 湯～園地

世界一の温泉湧出量を誇る別府市が

遊べる温泉都市構想を発表

成功の内幕を知ることです。

まず、主体は別府市観光戦略部観光課の主導です。

信念がすごいです。

資金がないことを言い訳にしない。

公費を一切使わない。

資金調達クラウドファンディングを利用しました。

宣伝が良く練られています。

市長が先頭に立っています。

You Tubeでわずか3日で100万回の再生を記録しました。

メディアの出演依頼は全て受け入れました。市長が先頭に立っていました。

宣伝効果は100億円と言っています。

伊豆市との違いは

観光施設やイベントを税金でまかなおうとはしませんでした。

税金で「湯～園地」を実現させると言う発想はありませんでした。

資金調達はクラウドファンディングとアイデアでした。

インターネットを徹底的に活用しました。

広報はあらゆる媒体を利用しました。

成功はボランティアの活用です。

市民参加と市長以下、職員のボランティア参加です。

さまざまな知恵を絞ったアイデアを生み出していました。

この研修で感じたことは観光はどこでも市の財政を当てにした活動をしていません。

黒川温泉でのモットーは

**住民に支持されない観光は減じる**

でした。

別府温泉では市民の支持を得て、クラウドファンディングを成功させました。

まちづくりは市民の支持を得ることに尽きるようです。

すごいのは湯～園地は民間の施設だということです。民間の施設を使い観光イベントを成功させました。

